

組織活性化のための提言

はじめに

近年、尼崎地区の登録者数減少傾向には歯止めがかからず、このままの状況が続けば、将来、地区存続の危機はおろか、尼崎市内のボーイスカウト運動が風前のともし火となりかねません。この現状を改善させる方策を立てるため、平成20年4月より組織活性化特別委員会を設置し、団の活性と地区の活性を推進させることを目指して検討を重ねてまいりました。この1年間を通して研究、検討してきたものを、ここに「組織活性化のための提言」としてまとめました。関係各位の皆様には、それぞれの役務において、組織の活性化を目指されるとき、この提言が参考になることを願っております。

尼崎地区の現状

尼崎地区の加盟員数は1983年の2,459名をピークに減少傾向に転じ、2008年は871名にまで減ってきています。ピーク時の35.4%です。スカウト数だけでみれば**29%**になっています。スカウト数の減少を、少子化を理由にあげることが多いのですが、尼崎市内の児童生徒数は1983年が71,844名で、2008年は34,125名ですから、2008年は1983年比**47.5%**になります。**児童生徒数の減少率よりスカウト数の減少率の高さが分ります。**

尼崎地区のスカウト登録数の前年度比増減数を年度別に表にして分析してみましたが、増加した時期、横ばいの時期、減少した時期、大幅に減少した時期があることがわかりました。この原因が、尼崎地区以外の要因、**外的要因**としますが、この外的要因が大きく影響していることが分ります。まず、**第一次ベビーブーム**に生まれた子供たちが入隊し組織が加速度的に大きくなり、その後も経済の発展とともに順調に推移していきます。尼崎地区がピークを迎える1983年頃は**第二次ベビーブーム**に生まれた少年達が入隊した頃です。その後減少に転じ、年間、百名から百数十名単位で大幅に減少していきます。1990年代になり、各団に**ビーバー隊が発足**した頃から大きな減少傾向も改善され、増加もしくは微減の年が続きます。**女子の加入**も影響しています。しかし、2000年代になりビーバーへの入隊者が減り始めると、それと連動して再び減少傾向になっていきます。毎年60名から110名の減少が数年間続きました。しかし、ここ数年は年間、十数名の減少で推移しています。一時期の百数十名減から見れば減少数は改善されてきています。この数年は、減り続けてきた尼崎市の児童生徒数も、横ばいかあるいは微増傾向にあります。これは**第二次ベビーブームに生まれた人の子供たちがその年代に当たるからだ**と思います。最新の2009年のスカウト登録数は484名で36名の減少です（全登録数815名で56名減）。1・2・5・6団が1つになることで減少は予想されていましたが、地区全体で予想以上の減少となりました。それでは、今後はどうなっていくのでしょうか。ベビーブームの効果も期待が出来ない、新たな低年齢の部門も考えられない、となると、**外的要因は期待できない**ということになります。しかも不況がボーイスカウトにも影響することは十分予想できます。

尼崎地区年度別スカウト登録数と前年度比増減数

年度	総数	増減	BVS	増減	CS	増減	BS	増減	VS	増減	RS	増減
1981	1693											
1982	1721	+28										
1983	1793	+72										
1984	1689	-104										
1985	1585	-104	発足									
1986	1654	+69										
1987	1526	-128										
1988	1390	-136	104		458		436		189		104	
1989	1261	-129	99	- 5	409	-49	390	-46	181	- 8	100	- 4
1990	1185	-76	94	- 5	385	-24	353	-37	176	- 5	113	+13
1991	1064	-121	93	- 1	355	-30	340	-13	155	-21	121	+ 8
1992	1073	+ 9	103	+10	356	+ 1	333	- 7	151	- 4	130	+ 9
1993	1043	-30	132	+29	320	-36	311	-22	143	- 8	137	+ 7
1994	1036	- 7	137	+ 5	328	+ 8	294	-17	146	+ 3	131	- 6
1995	942	-94	140	+ 3	297	-31	268	-26	118	-28	119	-12
1996	922	-20	169	+29	306	+ 9	229	-39	101	-17	116	- 3
1997	923	+ 1	160	- 9	335	+29	229	0	97	- 4	101	-15
1998	877	-46	160	0	336	+ 1	219	-10	89	- 8	73	-28
1999	853	-24	137	-23	337	+ 1	217	- 2	94	+ 5	68	- 5
2000	786	-67	118	-19	286	-51	235	+18	84	-10	63	- 5
2001	671	-115	87	-31	235	-51	211	-24	92	+ 8	46	-17
2002	600	-71	68	-19	213	-22	199	-12	84	- 8	36	-10
2003	609	+ 9	83	+15	190	-23	208	+ 9	77	- 7	46	+10
2004	595	-14	80	- 3	186	- 4	196	-12	85	+ 8	48	+ 2
2005	566	-29	68	-12	192	+ 6	180	-16	81	- 4	45	- 3
2006	552	-14	73	+ 5	177	-15	162	-18	91	+10	46	+ 1
2007	536	-16	72	- 1	176	- 1	139	-23	85	- 6	63	+17
2008	520	-16	77	+ 5	152	-24	142	+ 3	80	- 5	69	+ 6
2009	484	-36	63	-14	157	+ 5	118	-24	76	- 4	70	+ 1
2010												
2011												
2012												

平成 21 年度 団別スカウト登録数と前年度比増減数

団	総数	増減	BVS	増減	CS	増減	BS	増減	VS	増減	RS	増減
1	48	-4	10	+6	10	-4	9	-5	6	-4	13	+3
3	24	-9	3	-4	6	-2	7	-4	6	+1	2	0
7	62	+3	9	-1	17	-1	19	-2	9	+4	8	+3
8	30	-2	2	0	14	-2	6	+1	8	-1	0	0
10	11	-4	2	0	4	+1	2	-6	1	0	2	+1
11	44	-2	8	+2	21	+1	7	-1	3	-2	5	-2
13	20	-6	2	-2	5	-4	3	+2	3	-1	7	-1
14	74	-4	12	-7	24	+5	19	-3	9	+2	10	-1
15	21	+3	1	-1	10	+5	5	-2	3	+2	2	-1
17	27	-4	5	-1	10	+2	7	-4	4	+1	1	-2
20	28	+3	4	-1	10	+4	3	+1	2	-2	9	+1
21	20	-5	0	-4	9	+1	8	0	2	-1	1	-1
23	18	-10	4	-1	10	-2	2	-7	2	0	0	0
24	22	+2	1	0	5	+2	6	+1	8	0	2	-1
25	35	+3	0	0	2	-1	15	+5	10	-3	8	+2
合計	484	-36	63	-14	157	+5	118	-24	76	-4	70	+1

* 1 団の前年度のスカウト数は、1・2・5・6 団の合計数です

上記の表は平成 21 年度のスカウト数と、20 年度比の増減表ですが、この表から分るように、**危機的な状況の団**が非常に多いことがわかります。

また、追加登録者を含めた平成 20 年度末の登録総数が 936 名で、平成 21 年度初めの登録総数が 751 名ですから、実に 185 名が登録をしなかった計算になります。

登録を迷っていて、2 月時点でまだ継続登録していない者もいると思われませんが、その分を差し引いたとしても、**新規登録者数を大幅に上回る途中退団者がいる**ことがわかります。

この途中退団の多さの原因はいろいろあるでしょうが、スカウトに絞って考えると、受験勉強の低年齢化（私立中学受験のため 4 年生頃から受験勉強）、女子スカウトがボーイ隊上進時や中学校入学時にやめてしまう、他の青少年団体や習いごとに出てしまう、活動に魅力を感じなくなる、などが考えられます。

今後の推移予測

昨年度の地区月例研修でお世話になった外部講師 加納氏（名古屋）からいただいた加盟増減シュミレーションソフトに、尼崎地区の情報を入力してみました。この数値と、前頁の尼崎地区年度別スカウト数増減表を合わせて、今後のスカウト数の推移予測を当委員会でも研究してみたところ、現状のまま推移していくと、**2008年のスカウト数520名が、5年後に431名、10年後に342名になると予測されました。**2009年のスカウト数を見ると、もっと早いペースで進むと考えられます。

新入隊員を地区全体で現在より何人増やせば、上進率を何%上げれば、と段階的に予測してみました。個々の数値は省略しますが、当面の目標である登録数1000名（指導者数を2008年と同じ351名とすると、スカウト数は649名です）を10年以内に達成させるためには、**①新入隊員をBVS、CS合わせて毎年80名以上確保する ②途中退団者を含め、上進率を各隊とも70%～80%以上にする**の2点が必要なことが分りました。

組織活性化への道

尼崎地区へプラスとなる外的要因は、現在のところ見出せないことは述べましたが、青少年犯罪や青少年の風紀の乱れ、文科省の学習指導要領のキーワード「生きる力」などを見るに付け、社会がボーイスカウトなどの社会教育団体に寄せる期待は少なくないと思います。ボーイスカウトの原点を見つめ直し、社会に有用な、より良き社会人づくりを目指し続ければボーイスカウト運動の未来は決して悲観的なものではないと思います。

そのためには、組織に基礎体力をつける必要があります。**新入隊員の増加と途中退団者の減少対策、指導者の質を高め、指導者の量を増やし、魅力的な活動を、**と言われ続けていることですが、これが難しく、しかしこれを何とかしないとボーイスカウトの灯が消えてしまいます。

提言1. 広報

ボーイスカウトは知っているが、詳しい内容はわからない、連絡先が分らないなどと聞くことがあります。ボーイスカウトの姿を見ることも以前に比べ少なくなった、とも聞きます。ボーイスカウトは社会に認知されていると思いますがPRが下手なのでしょう。今、積極的な広報活動が必要です。

「小学校、幼稚園、保育所への働きかけ」

昨年10月配付した資料（公共施設一覧）を活用して、各団ごとに該当小学校から保育所まで「ボーイスカウト活動」の紹介と、行事等の案内を継続して行なうことをお勧めします。必ずしも好意的に受入してくれるとは限りませんが、スカウト関係者が、PTA役員などを引き受けるなど、「良い関係」を築くための努力は必要だと思えます。

「公民館、青少年センター、すこやかプラザへの働きかけ」

これも昨年10月配付した資料（公共施設一覧）に掲載していますが、公民館への働きかけ、継続的な「ポスター掲示」のみにとどまらず、公民館の利用者団体…特に「子育てサークル」などへ「ボーイスカウト活動」の紹介と、行事等の案内をするなど、積極的にPRを行なうことをお勧めします。

「町会の回覧板、掲示板の活用」

校区内の町会の回覧板や掲示板を利用して行事等の案内を継続して行なう努力をしましょう。特に、掲示板の利用については、定期的に更新し、常に新しい情報を提供できるような努力をしていきましょう。町会や商店街の活動（例えば募金活動や町会行事）の手伝いをして顔の見える「良い関係」を築くことも重要です。

「積極的な広報」

(ア)市の広報（市報やFM放送）を通して「ボーイスカウト活動」の紹介や「スカウト勧誘」をタイムリーに行なっていこうと思っています。

(イ)体験入隊時に「みらいの風」や各団で発行している通信などを活用して、「ボーイスカウト活動」を紹介して下さい。団の紹介やスカウトの投稿記事を通して、ボーイスカウトをより深く理解してもらいたいと思います。

「歴代の指導者へ情報提供」

過去に指導者（団関係者）として奉仕してくれた方々へ、定期的に団の状況や活動内容を報告することによって、スカウトの勧誘に繋げる下地を作ることも必要です。

団それぞれの事情もあり、上記「 」の項目の全ての実行は難しいかも知れませんが、とにかく「継続して実行すること」「地域の諸団体と良い関係を築いていくこと」が大切だと思います。接点を点から線そして面へと拡大していく工夫と努力が必要だと思います。

そして、スカウト勧誘に効果的だった方法を地区全体で共有できる仕組みを、総務委員会を中心に作っていきます。ぜひ、みなさんのご協力をよろしくお願いします。

尼崎地区では4月以降、ホームページを作る予定です。各団とリンクできればより効果的だと思います。積極的な取組みを期待しています。

また、5月をボーイスカウト広報重点月間とし、地域での活動を積極的に行っていただきと思います。地区事業としては、5月31日(日)に全地域一斉の体験入隊と、6月21日(日)には、青少年センターで1日広報活動を展開するよう計画中です。

提言 2. 指導者

ボーイスカウト運動の牽引者は、隊指導者であり、また団指導者です。この指導者の質と量が不足すると、団は衰退の一途をたどります。指導者を確保し、良い指導者を育てていくことが、よりよいスカウト活動を行なうために必要不可欠なことです。

「ローバースカウトの教育」

ローバースカウトが指導者として団で活躍できることが理想ですが、受験、就職とスカウト自身の環境の変化は著しいものがあります。そのような状況の中でも、指導者として奉仕することの楽しさと自信が持てるような環境作りが必要です。**ボーイスカウト講習会、地区の月例研修会や各種の研修へ参加することを奨励**して下さい。

「保護者との関わり」

保護者から指導者の道へと進むことが多くあります。特にビーバー年代、カブ年代の保護者との関わりが重要です。保護者や地域の人たちに、ボーイスカウトの活動内容や意義、目的などを理解していただき、お手伝いしていただけるよう理解を求めていくことは大切だと思います。保護者から、ビーバー隊の補助者やカブ隊のデンリーダーになっていただき、指導者として養成していき、隊長や副長、団委員へと進んでいただけるような、コミュニケーションづくりが団委員会に必要です。そのためにも団でぜひ、**保護者や地域の人たち向けのボーイスカウト説明会を開催**していただきたいと思います。団担当コミッショナーに申し出ていただければお手伝いをさせていただきます。4月から依頼に対処できるよう、30分から2時間程度の説明会用資料づくりの準備を進めております。説明会だけでなく、スカウトソングやゲームの指導などもデリバリー研修（出前研修）を活用ください。

「指導者の資質の向上」

スカウティングの原理を踏まえて、社会に役立つ人を育てるためには、「ちかい」と「おきて」の実践をベースにし、班制教育、進歩制度、野外活動をプログラムに取り入れた活動を展開することです。指導者自身がその資質を身に付けていることが必要だと思います。また、指導者のやる気のなさ、怠慢は、しっかりとスカウトは感じ取っています。アダルトリソースポリシーの趣旨を理解いただき、**適材適所に人材を配置**することに留意して下さい。現在、指導者委員会では、各部門で異なる大人の関わり方を充分理解してもらえ、研修会を実施する予定にしております。指導者の研修意欲と隊活動の充実は正比例するという調査結果が出ています。**ボーイスカウト講習会、研修所、実修所、各種研修会**の情報をタイムリーに伝え、**参加への働きかけ**をお願いします。

「女子スカウト対策」

カブからボーイへの上進時や中学校入学時に女子スカウトの退団が見受けられます。集

団で辞めることもあります。ボーイ隊における女子スカウト対策を立てないと、途中退団者数は減りません。女子スカウトが魅力を感じる体制作りが必要です。目標となる女子先輩スカウトを育てることや、スカウトから慕われる女性ボーイ隊指導者の配置などが望まれます。対策が講じられている団からは、女子の途中退団が顕著という話は聞きません。

提言3. 進歩

途中退団の要因となる点は、スカウトが活動を続けていくモチベーションとして、活動が面白いかどうかに関わってきます。活動にはプログラム面と進級面に分かれており、進級面でいえば、進歩制度がうまく機能しているかに絞られます。そこで、それらをまとめてみると、

「プログラムが進級の土台になりたっているかどうか」

行き当たりのプログラムをしているかどうかは、年間プログラムを見ればすぐに判ります。各スカウトが進級できるように、しっかりと活動と進級を関連づけることです。

「進級の個人記録がしっかりと整っているか」

地区面接で個人の進級記録が、あやふやであるものをしばしば見かけます。記録は隊や団にとっては宝物であり、なくてはならない財産です。スカウトが入団した時から、しっかりと上進ごとに、上進先の隊長に受け継ぎ、スカウトの分身を残すことが大事です。そのためには、進歩記録などを1年に1回は団が閲覧することを薦めます。

「活動が充実しているか」

隊の指導者の数が正規の人数であり、役割分担はしっかりとされているか。少ない隊指導者での活動は、どうしても無理が生じ、安全面でも問題が出てきます。何よりもプログラムが小規模になってしまい、マンネリ化にもなります。他団との合同プログラムを計画し、自団の足りないところを補うことを考慮しましょう。

「進級の励ましがあるか（進級章やバッジなどの授与式がおざなりになっていないか）」

スカウトの晴れ舞台である、各種の授与式を簡単に済ませていないか。多少遅れても、なるべくたくさんのスカウトが集まる行事を狙って敢行したいものです。誰でも人前で褒められることは、嬉しくもあり、次へのステップの士気が上がるものです。

「団の進級面接を怠っていないか」

授与式にもつながりますが、各進級時には必ず、団での面接と団を挙げての演出をしたいものです。スカウトの努力を認める絶好の機会でもあり、進級意欲を持続させる絶好のポイントとなるセレモニーを絶対に怠ってはいけません。

提言 4. 団の適正規模と合同活動

2008年の統計で、1個団あたりの加盟員数の全国平均は63.1名になっています。兵庫連盟では平均61名、尼崎地区は54名で、兵庫連盟17地区中、少ない方から数えて6番目になっています。阪神6地区の中では一番少なく、西宮92名、伊丹83名、宝塚82名、芦屋70名、川西60名、尼崎54名と**尼崎地区が際立って少ない**ことが分ります。スカウト数だけで見ますと尼崎地区の1個団平均は33名になります。

兵庫連盟では、スカウトの標準組織を

BVS 12名 CS 18名 BS 18名 VS 6名 RS 6名 合計60名
以上としています。

カブ隊は3組、ボーイ隊は3班以上で活動できることを念頭においていることが分ります。また以前の規定では、

CS 10名 BS 12名 SS 8名 RS 8名

に満たない部門は、隊として認められませんでした。隊登録はできず、暫定組または暫定班としての登録です。また、全部門とも隊登録できない場合、団としての登録ができず、継続の意思の有無に関わらず、団は消えていきました。

2008年度の登録数を旧規定に当てはめると、**尼崎地区の半数近い団が登録できない**状況にあります。

この旧規定は、カブ隊もボーイ隊も最低2組、2班ないと、本来のスカウティングができないという教育的観点からです。規定が変わったのには、団の実情と、日連の財政的理由からだと思いますが、この旧規定でいう**最低でも2組、2班以上での活動**を、という教育的観点は無視できません。

そこで、尼崎地区では、少人数団は**近隣の団との合同活動**を奨励しています。

単発的な合同活動ではなく、班制教育が機能する合同活動です。これを実施していくためには、年間プログラムを共有するなど、十分な打ち合わせが必要です。また、カブ隊、ボーイ隊だけでなく、ビーバー隊も合同活動を行なうことにより、大人数で活動することの利点も多く、団体活動の教育的効果を期待する入隊希望者の保護者からも好感が持たれると思うからです。

ただし、この合同活動を行なう上で留意してほしいことがいくつかあります。

○ 丸投げしない

指導者不足を理由に、スカウトを他隊指導者に預けることは、**団の発展には逆効果**になります。その隊はいつまでたっても隊指導者が育たなくなり、結果衰退していきます。団の合併を前提とした合同活動なら別ですが、常に将来を考えての合同活動であることを望みます。指導者候補の保護者でもいいので、合同活動に参加していただき、近い将来の指導者として育てることを常に心がけてください。

○ 場当たりの活動は行なわない

合同活動が、**班制教育を機能させる**ということと、**団の活性化を図る**という目的を認識し、団全体の方針を決めて展開してください。また、合同活動する団相互の意思統一も充分図られなければいけません。年間プログラムを共有する、また組・班活動を隊で、組の発表や班対抗ゲームは合同活動で、といった意思統一です。合同活動の目的をうやむやにした単発の活動では、教育的効果はあまり上がりません。

○ 隊長同士協働する

合同での活動には、隊長それぞれの方針や考え方の違いもあるでしょうし、気を使うことも多くなると思います。しかし、これもすべてスカウトのためと考え、良いところを学び合い助け合う気持ちで協働してほしいと思います。そして、それぞれの隊が常に2組、2班以上での活動が展開できるようになることを願い、そのようになった時には再び隊独自の活動へと移行できることを願っています。

○ 合同で行なう「ねらい」を理解する

合同活動は、団を活性化することと班制教育を機能させるが目的であり、合同活動すること自体が目的ではありません。合同活動があまり長く、また安定し続けると、安易にお任せ体質に陥りやすくなる可能性があります。それなら、団の合併を目指したほうがスカウトにとっては良いかも知れません。丸投げや、お任せではなく、お互いの団が発展することを願いつつ、自団の目標として、ビーバーが楽しく賑やかな活動が展開でき、カブ隊、ボーイ隊が常に2組・2班以上で活動でき、ベンチャー隊が自主的な運営ができ、隊指導者、団指導者の質と量が充実する体制作りに取り組むべきです。その体制作りが合同活動を通じて実現できるよう努力し、実現した時、団同士の協力体制は残しつつ、元の団独自の活動へと移行する、ということを願っています。合同活動は緊急避難的処置だと認識してください。

地区委員会の活性化

地区委員会も、団内の指導者と同じように、役員の質と量が大切です。新しい力を入れるために、今後も各種実行委員長を地区の特別委員長とし、期間限定の地区役員として、地区委員会、協議会に出席していただきます。また、ユース委員会がうまく機能するように、地区委員会が支援していきます。

最後に

平成 20 年 4 月に発足した組織活性化特別委員会ですが、10 回の委員会を開催し、組織活性化のための研究や検討を重ね、この「組織活性化のための提言」にまとめることができました。この間、できることは早急にという気持ちで、いやさかバッジの啓蒙、地区ホームページ開設のための委員会の立ち上げ、全団から了解を得た合同活動の取組み、RS 活動の活性化、広報活動の実施、といろいろ取り組んできました。

これらの取組みも、すぐに組織の活性に表れるものではありません。しかし、何もしないで待つことなく、良いと思うことはとりにあらずやってみるという気持ちが必要だと思います。

この 1 年で、手を付けられなかったこともあります。以前、途中退団者の多いのはボーイ隊と言われたこともありますが、今はカブ隊も多くなっています。私立中学受験の影響でしょうか。受験勉強を理由に活動を休み、そのまま退団してしまう場合が少なくありません。受験による途中退団者をいかに減らすか、今後の対策が待たれるところです。

菊章、富士章を目指しているスカウトは退団しません。スカウト仲間に親友がいるものも退団しません。スカウト活動が大好きなものは当然退団しません。ボーイスカウト運動の原理原則に沿い、魅力的な活動を進めていきたいものです。

平成 21 年 3 月 27 日

組織活性化特別委員会

委員長	長	延行	(地区副委員長)
委員	下岡	光治	(スカウト委員長)
委員	小谷	泰一	(指導者委員長)
委員	氏家	勉	(総務委員長)
委員	橋本	広吉	(団担当コミッショナー)
委員	小川	登志男	(団担当コミッショナー)
委員	枝根	秀男	(団担当コミッショナー)
委員	梅本	順子	(団担当コミッショナー)
委員	築瀬	寿子	(事務次長)
オブザーバー	山中	弘彬	(地区委員長)
オブザーバー	木下	弘	(地区コミッショナー)
オブザーバー	佐藤	正勝	(事務長)